



1	はじめに	1
2	理事会・幹事会報告	1
3	次期役員募集・推薦委員会報告	3
4	委員会報告	3
4.1	海外学会派遣員の募集結果	3
4.2	第1回 会誌編集委員会報告	4
4.3	第1回 普及・連携委員会報告	5
5	行事開催報告	6
6	行事予定	7
7	4月からの学会の動き	7
8	次期役員候補の募集	8
別紙 第15回大会案内〈金沢大会〉		

1 はじめに

今回のニュースレターでは、理事会・幹事会報告、第1回次期役員募集・推薦委員会報告、海外学会派遣者の選考結果報告の他、次期役員公募案内、第15回大会(金沢市)の案内(別紙)を掲載しています。また、委員会報告として会誌編集委員会や普及・連携委員会からの報告や、6月以降の国際シンポジウム等を案内しています。

なお、第14回総会における「2011年度予算に関する決議」にもありましたように、2011年度からのニュースレターは、学会ホームページにアップロードしたPDFファイルのURLを、登録頂いたメールアドレスに送信していくこととなっております。本号がその第1回目となります。

メールアドレスをお持ちでない会員、お知らせ頂いていない会員の方には、引き続き印刷物を送付いたしますが、経費削減対策の一つとなっておりますので、できるだけ電子配信にご協力下さい。

メールアドレスを登録する場合は、下記にお知らせ下さい。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecjs.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

2 理事会・幹事会報告

2011年度最初の役員会は、メール会議で行われました。第47回幹事会、第56回理事会の審議事項および報告事項について報告します。

役員会開催状況
第47回 幹事会〈メール会議〉 平成23年5月17日(火) ~ 23日(月)
第56回 理事会〈メール会議〉 平成23年5月24日(火) ~ 30日(月)

第56回 理事会

1 審議事項

●事務局作業の軽減

『役員会・委員会に関わる旅費の支給は、振込による事後精算方式へと変更し、それに伴う事務処理について検討していくこと。』という第55回理事会の決定を受け、事務局では5月19日の普及・連携委員会から、事後精算方式への移行を試行しています。これにより、「銀行からの現金の引き出し」、「申

請額に併せた現金の封筒詰め作業」、「多額の現金の現地への運搬」、「領収書の準備・受領」といった事務作業が軽減されます。今回の理事会では運用の細部の修正について審議いただき、6月から正式に運用することについて了承されました。運用のポイントは以下のとおりです。

- ①役員会、委員会に関わる旅費の支給は、振込による事後精算方式へと変更する。
- ②日程調整等の連絡の際に、交通費の申告をいただく。振込先も同時に確認。
- ③交通費、宿泊費についての節減をお願いする（割引航空券、パックの活用など）。
- ④割引制度を利用し、やむを得ない事情で変更手数料が発生した場合には、その領収書について支払いする。
- ⑤振込み実施後に、メールにて振込の連絡。
- ⑥その他の運用（宿泊費が発生する場合の支給対象泊数等）は、従来どおり。

2 報告事項

(1) 2011年度 第1回次期役員募集・推薦委員会報告

第1回次期役員募集・推薦委員会の審議結果について報告されました。報告内容は次期役員の募集手順、募集内容等に関するものであり、その内容が理事会において確認されました。これを受け、応用生態工学会では本ニュースレターやホームページ上で正式な次期役員募集のアナウンスを行います。

募集内容は、本ニュースレターの最後に「次期役員候補の募集」として掲載しました。

(2) 第47回 幹事会報告

第47回幹事会（メール会議）の結果について報告されました。会議内容は、本理事会で諮られた審議事項、報告事項と同じです。

(3) 平成23年度 海外学会派遣者報告

海外学会派遣研究者の選定に関する国際交流委員会（メール会議）の選定結果について報告されました。詳細は、3ページ目の4.1海外学会派遣員の募集結果をご覧ください。

(4) 年度途中入会者の初年度会費減額について

『2012年度からの更なる入会促進策について幹事会で検討し、理事会に諮ること。』という理事会意見（継続検討事項）については、初年度会費を半額にする、会員からの紹介で入会する場合は、初年度会費を半額にする等を検討しています。

大会後に入会した正会員は、当該年度会費は半額（2,500円）とするという対策は決定済みですので、今後、この制度の周知と効果の把握、デメリット（収入の減少など）の整理などを実施した上で幹事会・理事会に改善案等を諮ることとします。

(5) 収入増方策・新規収入源の確保

①講習会テキスト等の刊行・販売

『応用生態工学に関するテキスト（大学～社会人・実務者レベル）の作成について、「会員向けアンケート」を実施し、回答を集計して刊行に反映すること』との理事会意見があり、2月18日にニュースレターNo.51で「会員向けアンケート」を発信し、4月15日に回答を締め切りました。

34通の回答があり、現在、集計作業に取りかかっています。6月中に取りまとめを行い、7月の幹事会・理事会での集計結果提出を予定しています。

②会誌の魅力化に関する対応

『会誌の魅力化を図るため、幹事会・編集委員会で会誌の性格・方向性について議論すること』という理事会意見があり、5月14日に開催された会誌編集委員会では、「事例報告」の掲載を前向きに検討し、会誌の魅力化を図っていくという議論がありました。

特集企画や査読の迅速化による会誌の魅力化については、4.2の編集委員会の議事録を参照してください。

第47回幹事会

1 審議事項

第56回 理事会報告をご参照下さい。

2 報告事項

第56回 理事会報告をご参照ください。

3 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：川那部元会長

委員：廣瀬元会長，山岸前会長

2011年度は役員改選年であり，第55回理事会で次期役員募集・推薦委員会のメンバーの推薦が行われました。会長の調整・決定を受けて，委員委嘱の続きが行われ，第1回次期役員募集・推薦委員会（メール会議）が5月11日～5月16日に開催されました。

【審議内容と結果】

(1) 役員公募の手順・スケジュール（案）

手順・スケジュール（案）は，「次期役員募集・推薦委員会 規程」に準拠した流れとなっています。このような手順・スケジュールで必要十分かどうか審議され，了承されました。

(2) 次期役員候補の公募文

次期役員を募る公募文（案）について審議され，了承されました。

前述の通り，理事会で確認された公募文並びに手順・スケジュール表は，本ニューズレターの最後に「次期役員候補の募集」として掲載しました。

4 委員会報告

4.1 2011年度海外学会派遣員の募集結果

国際交流委員会

2011年度 海外学会派遣研究者募集が4月22日に締め切れ，3名の応募がありました。

国際交流委員会では，4月22日～5月11日の期間でメール会議を行い，派遣者についての審議を行いました。

審議の結果，3名の候補者を採択し，助成額を5万円とすることとなりました。なお，「助成額が少ないなどの意見もありますが，やはり多くの若手研究者に海外での情報を学会へ持ち帰ってもらい，報告していただき，学会を盛り上げてもらいたいとの期待を込めて，3名の採択とします。委員の一人から

の意見にもありましたとおり，採択者には助成額などの助成制度についてのヒヤリングを行いたいと思います。」とのコメントが審議結果に付されていました。

2011年度 海外学会派遣決定者

氏名	平岡 真合乃
派遣希望学会	1) 会議名称:AGU 2011 Fall Meeting 2) 主催:American Geophysical Union 3) 開催月日:2011年12月5日～9日 4) 開催国 :San Francisco, CA, USA 5)発表予定:有り

氏名	大谷 壮介
派遣希望学会	1) 会議名称:第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9) 2) 主催:財団法人 国際エメックスセンター 3) 開催月日:2011年8月28日～31日 4) 開催国 :アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市 5)発表予定:有り

氏名	尾花 まき子
派遣希望学会	1) 会議名称:第18回生態系モデリングに関する国際会議 2) 主催:国際生態系モデリング学会，北京師範大学 3) 開催月日:2011年9月20日～23日 4) 開催国 :中国・北京 5)発表予定:有り

4.2 第1回 会誌編集委員会報告

日程：2011年5月14日（土） 13：30～15：30

場所：応用生態工学会事務局

出席：森委員長，浅枝委員，大野委員，小出水委員，角委員，西委員，風呂田委員，松井委員，山本委員，安田委員，高橋事務局長

今年度第1回目の会誌編集委員会では，以下の内容が議論されました。

(1) 編集作業上の課題

・編集幹事が不在のまま，編集出版作業を基本的に森委員長が単独で対応している状態であるため，6月中に編集幹事を決定する予定であるが，未決の際は委員会に周知し推薦を募る。そのため現状では，連絡が遅れることがあるが，出版作業においては特段の支障はない。

(2) 担当編集委員の規程

- ・担当編集委員の役割や義務について、現状では規程ではなく申し合わせで対処した方が良いとの意見があり、たたき台を作り意見を集約することとなった。
- ・査読以前に投稿受付規定に合致しない論文の判断をどうするかとの議論があり、本来は編集幹事がチェックすべきであるが、現状では編集委員長と担当編集者が決めることとなった。

(3) 査読のスピードアップ策

遅延する場合の原因として、編集委員長、担当編集委員と査読者の応答遅延（編集進捗の現状把握への認識不足）があげられた。また、著者自身の査読結果への対応遅延が原因のこともあった。一方で、個々の対応が早く、受付から受理までの作業が早い場合（1カ月間）もある。

対策として、下記の内容が議論された。

- ・編集委員長と担当編集委員のチェック、担当の変更を速やかに実施（規定は1ヶ月後）
- ・担当委員と査読者の連絡不足を改善
- ・編集委員、査読者の増強（査読者は非会員も可）
- ・査読システムの中には1ヶ月回答がなければ自動的に知らせるシステムを持つものがある。J-STAGE にこの自動連絡システムがあるかどうか調べて、あれば活用する方向で検討する。

(4) 会誌の魅力化について

- ・投稿数を増やすとともに、単なる観察結果であっても記録・報告があることが重要と考えられるため、「事例研究」よりハードルが低い「事例報告」という種別を設けてはどうかとの意見があった。また、「事例報告」では「事例研究」と紛らわしいので、「調査報告」という種別はどうかとの意見があった。
- ・場合によっては、事例報告（調査報告）から事例研究に格上げする教育的指導もありうる。
- ・この新しい種別を設ける件については、前向きに検討する。ただし、学会誌である以上、原著論文の増加が基本である。
- ・「事例報告」（調査報告）を別冊化するという意見

については、学会誌と分けて分冊にしてしまうとソースが分からなくなるとの意見があり、少なくとも当面は、一冊で出版することとなった。

(5) 書評の充実について

- ・書評でなく、文献紹介という種別も必要との意見があった。また、メーリングリストで書評者を募集し、書評者には無料で本を贈呈する仕組みはどうかとの意見が出された。この他、当面は委員の持ち回りで行う、他の委員会委員にも寄稿依頼を周知する等の意見があった。

(6) 特集企画

- ・震災特集についての提案があった。Vol.14-1 で意見を述べ、Vol.14-2 で特集を組むという案について、Vol.14-1 では土木系の意見と生物系の意見を入れた共著という形で出してはどうかという意見があり、その方向で検討することとなった。

(7) その他

- ・これからは電子媒体が主流となると考えられるため、アンケートで、紙でもらう会誌の必要性を会員に問い、会誌の電子化について幹事会にかけるとの意見があった。
- ・J-STAGE の個人情報管理（パスワード忘れなど）についての問合せがあり、学会事務局を含めたルール化とともに会員にニュースレターで周知する。

4.3 第1回普及・連携委員会報告

日時：5月19日（木）20：30～22：30

場所：ホテルセンチュリー21広島会議室

出席委員：竹門委員長、中井委員（連携担当）、久保市委員（東京）、澤委員（石川）、中村委員（名古屋）、厨子委員（大阪）、川越委員（愛媛）、若尾（広島）、宮良（那覇）、藤谷（オブザーバー）、斉藤（オブザーバー）、高橋（事務局長）

(1) 前回の委員会議事録について

前回の委員会議事録について、委員より補足説明がありました。

- ・アクションプランにおける目標の立て方については、他の地域の数値目標などを横並びでノルマ的

に示すのは、地域的な差異や事情があることから、過度なプレッシャーにもなることがある。

- ・企画のテーマについて、「応用生態工学的」といった表現が見受けられるが、一般の人には分かりにくいので、もっと一般的で具体的な表現がよい。

(2) 次回の全国版フィールドシンポジウムについて

- ・平成 24 年度の全国版フィールドシンポジウムについて話し合わせ、那覇開催の方向で 9 月の大会時までには状況を整理して提案することとなりました。

(3) 事務局作業の軽減について

事務局作業の軽減について議論され、次の内容が決定しました。

【決定事項】

- ・普及・連携委員会では、委員会の中で幹事、庶務、書記を決めて役割を分担する。
- ・互選により候補者を定め、7 月の幹事会で承認を受ける。

幹 事：普及・連携委員会のとりまとめを行う。

庶 務：委員会開催場所の決定・準備、日程調整などを行う。

書 記：委員会の議事録を作成する。

(4) 東日本大震災後の復興にかかわるアクションについて

応用生態工学会仙台の橋本委員から以下の短文が寄せられました。

+++++

◆今回の東日本大震災に対する「応用生態工学会」の役割

応用生態工学会仙台 地域担当責任者
橋本 正志

震災から 2 ヶ月が過ぎましたが、復旧作業は行方不明者の捜索と並行して行われており、現在は仮設のインフラ整備を行っている段階で、ガレキ処理、仮設住宅、市街地の復興計画など問題が山積している状態です。

また、マスコミでは余り取り上げられていませんが、津波被害の陰で、宅地地盤（盛土）や建物（マンション等）の被災が深刻です。

今後、応用生態工学会が取り組むべき課題は、以下のとおりと考えます。

- ・市街地の復興計画にあたっては、地域の環境（生態系）を十分把握した上で計画を行う。
- ・津波によって新たに出現した汀線及び干潟環境のモニタリングを行う。

+++++

橋本委員（仙台）の意見に対し、普及委員会としての意見を集約していく必要があるとの意見が委員長よりありました。今後、進んでいく復興に際して、応用生態工学会としてできることを考える必要があることから、以下の内容が決定しました。

【決定事項】

- ・今後メール会議で、意見交換を行う。
- ・応用生態工学的な視点からのアイデアについて、意見を交換する。

(5) その他

フィールドシンポジウム in 広島終了後における普及・連携委員会反省会

普及連携委員会と同時に開催されたフィールドシンポジウム in 広島について、終了後に普及・連携委員会としての反省会が行われ、以下の内容が話し合われました。

日 時：5 月 20 日（木）15：30～16：30

場 所：広島市南区民文化センター ロビー

出席委員：竹門委員長、久保市委員（東京）、中村委員（名古屋）、厨子委員（大阪）、川越委員（愛媛）、若尾（広島）、藤谷（オブザーバー）、斉藤（オブザーバー）、高橋（事務局長）

- 地方開催であり参加者が集まるかどうか不安であったが、多くの参加者があった。全国共通の良いテーマを設定すれば、地方でも開催可能だと感じた。
- 参加者にアンケートをとっていない。至急、電子メールを活用してアンケートを行う。
- 地元新聞社の取材があり、現地見学会の写真付きの記事が朝刊に掲載された。事前にマスコミ等にも情報は伝えておくべきである。

- 運営コスト削減について、地元の大学と良好な関係を構築し、学生がアルバイトで手伝ってくれる体制作りを検討してはどうか。
- マニュアル整備について、次回の普及・連携委員会までに、矢作、仙台、広島 FWS の経過を整理し、次回の委員会で審議する必要がある。また、マニュアルには広報のあり方を掲載する必要がある。

5 行事開催報告

応用生態工学会では、現場のニーズに応じた研究テーマの発掘等を目的に、全国大会とは別に全国フィールドシンポジウムを開催してきました。

今回は、第3回 フィールドシンポジウム in 広島が5月19日～20日の日程で開催されました。

詳細については、次回のニューズレターで紹介いたします。

6 行事予定

● 国際交流委員会 国際交流シンポジウム

生物多様性を意識した河川環境管理

～COP10 後の日本と欧州での取り組み～

国際交流委員会

応用生態工学会 東京

国際交流委員会と応用生態工学会 東京では、国際交流イベントとして、6月8日にシンポジウムを開催します。

【主催・共催】

主催：応用生態工学会国際交流委員会

共催：応用生態工学会東京

【開催趣旨】

昨年名古屋で実施された COP10 では今後の生物多様性保全の方向性が示されました。

2011年からは生物多様性の10年も始まっています。しかし、河川の現場においては具体的にどのような取り組みを進めていけばよいのかまだ手探りの状況なのではないでしょうか。各地の河川や湖沼では自然再生も進められていますが、日常的な河川環境管理に組み込まれた計画論や適切な評価・管理

手法などが依然求められていると思います。

本国際シンポジウムは、欧州の河川の環境管理に関する研究の第一人者であるクレメント・トクナー博士らお招きし、欧州と日本の事例なども踏まえ、今後の河川環境管理のあり方、特に生物多様性との関わりについての意見交換を行おうというものです。

河川管理上、水害対策は不可欠ですが、長期的には生物多様性も意識した管理手法を各地の現場に反映させていくことが重要です。

多くの皆さまの参加を得て、有意義なシンポジウムとしたいと考えています。

【日時・場所】

- 日時：2011年6月8日（水）

13:00～17:40

- 場所：東京工業大学

くらまえホール（蔵前会館）

<http://www.somuka.titech.ac.jp/ttf/access/index.html>

【プログラム（予定・講演タイトルは変更の可能性があります。）】

（講演1、2には半逐次翻訳あり）

講演1 欧州での生物多様性を意識した河川環境管理への取り組みと課題

クレメント・トクナー博士（ライプニッツ淡水生態系・内水面漁業研究所（IGB）所長）

講演2 遺伝生態学からの生物多様性へのアプローチ
マイケル・モナハン博士（IGB）

講演3 生物多様性に影響を及ぼす樹林化への対応（仮題）

浅枝隆（埼玉大学教授）

講演4 木津川自然再生とタリアメント川再生プロジェクト（仮題）

竹門康弘（京都大学教授）

パネルディスカッション

「生物多様性を意識した今後の河川環境管理とは？」

中村太士（北海道大学教授）

クレメント・トクナー（IGB）

マイケル・モナハン（IGB）

浅枝隆（埼玉大学）

竹門康弘（京都大学）

安田吾郎（国土交通省）

【懇親会とポスター発表】

18:00 から東工大百年記念館・角笛で懇親会を行います。

参加料は一般 3000 円です。

懇親会場では、学生のポスター発表も行う予定です。

＊ポスター発表をご希望の方は、下記の申し込み先にお知らせください。

【参加料】

資料代：500 円

【参加申込み】

人数確認のため、お手数ですが事前にご参加される方のお名前とメールアドレスを、受付担当の西までお知らせください。(nis18209@ideacon.co.jp)

1. シンポジウム参加 (氏名, メールアドレス)
2. 懇親会参加 (氏名, メールアドレス)

7 4月からの学会の動き

4.1	平成23年度(2011年度)開始
4.16	応用生態工学会 福岡 「遠賀川中島自然再生研究会(仮称)設立・現地見学会」(遠賀川河川事務所)
4.14	応用生態工学会誌編集委員会
5.11~16	第1回次期役員募集・推薦委員会
5.19	第1回普及・連携委員会
5.19~20	第3回フィールドシンポジウム in 広島(広島市内)
5.25	金沢大会実行委員会開催(第3回, 金沢市)
5.17~23	幹事会(メール会議)
5.24~30	理事会(メール会議)
5.31	ニューズレター52号発行(電子配信)
6.1~30	次期役員 募集期間
6.8(予定)	国際交流委員会・応用生態工学会 東京 「Klement Tockner(河川生態学), Michael Monaghan(IGB, 遺伝生態学), 渡辺幸三(IGB, 遺伝生態学)等による国際シンポジウム企画」, (東京工業大学)
7.5	第2回次期役員募集・推薦委員会
7月	幹事会・理事会(会議)
8月	ニューズレター53号発行(電子配信)
9月	幹事会・理事会(メール会議)
9.14(水)~17(土)	第15回 金沢大会 14(水) エクスカーション(石川県内) 15(木)・16(金)研究発表会, 分科会, 自由集會 (金沢学院大学), 懇親会
9.17(土)	総会, 公開シンポジウム(県立音楽堂文化交流スクウェア予定)

8 次期役員候補の募集

次期役員募集・推薦委員会

今年度は役員改選期にあたります。本委員会は2月5日の第55回理事会で設置されたのを受け、5月11日~16日に第1回の委員会(メール会議)を開催し、以下の要領で次期役員の募集を行うことといたしました。会員の皆様におかれましては、この要領に従い、候補者の届出をしていただくようお願いいたします。

なお、本委員会の規程(次期役員募集・推薦委員会規程)は、第48回理事会で了承されたのち、2009年8月27日から施行されています。

【届出を受け付ける役員】

会長(1名)および副会長(3名以内),
理事(15名以内), 監事(2名)

※役員選出に関連する学会規約第9, 10, 11, 13, 14条をご確認ください。

また、幹事については、学会規約第12条のとおり理事会により候補が推薦されます。

【届出の方法】

自薦・他薦を問いません。会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて、学会事務局まで郵送にて届け出てください。

【受付期間】

2011年6月1日から6月30日までの1ヶ月間

【届出の様式】

学会ホームページ掲載の所定の様式(上記期間中掲載)を用いてください。

【今後の役員選出の流れ】

- (1) 第2回委員会の開催
・候補者の届出や推薦人名簿の確認などを行い、候補者が定員に満たない場合などは、候補者の推薦を行います。
- (2) 候補者の周知と投票
・候補者の周知・投票については、「次期役員募集・推薦委員会規程」の[5]周知・投票に関する調整をご覧ください。

(3) 総会での選出

- ・学会規約に基づき、会長、副会長、理事、並びに監事は、総会における投票(委任状も含む)により選出されます。

【規程】

次期役員募集・推薦委員会 規程	
[1] 目的	本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、立候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。
[2] 設置と構成	本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長(1名)及び委員(2名以上)は、理事会が指名する会員で構成する。
[3] 立候補者の募集・受付	<p>本委員会が立候補を募る役員は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、立候補者の募集・受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第10条及び第13条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。 ・候補者は、自薦・他薦を問わない。 ・会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて学会事務局に届け出る。 ・候補者の募集・受付期間は、役員改選年の総会の4ヶ月前～3ヶ月前を基本とする。
[4] 候補者の推薦	本委員会は、候補者の募集期間中に候補者が定員に満たない場合などは、候補者の募集・受付期間経過後に候補者の推薦を行う。
[5] 周知・投票に関する調整	<p>本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会事務局は、立候補者の募集・受付の要領や推薦人名簿の様式等の必要な書類の周知を、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。 ・学会事務局は、立候補者もしくは推薦された次期役員候補者を、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。 ・学会事務局は、総会において次期役員選出のための投票結果をとりまとめる。

なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員については、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として評決を委任することができる。

[6]総会における報告
本委員会は、学会規約第10条、第11条、第13条、及び第14条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。
・次期役員候補者の募集・推薦等の経過の報告

[7] 付則
本規程は、平成21年5月11日より施行する。
本規程は、平成21年8月27日改正し、施行する。

次期役員公募手順・スケジュール表

月	日	曜日	次期役員募集・推薦委員会
4月	4	(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱状送付 ・委員委嘱状受領
	11	(月)	
	18	(月)	
	25	(月)	
5月	2	(月)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回推薦委員催審議事項 ①公募手順・スケジュール ②公募文
	9	(月)	
	16	(月)	
	23	(月)	
6月	1	(水)～	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレター・ホームページへの公募案内掲載 ・役員候補の受付
	30	(木)	
7月	4	(月)	<ul style="list-style-type: none"> <7月5日開催予定> 第2回推薦委員会審議事項 ①次期役員応募状況の確認と定数未滿などの場合の推薦 ②役員候補者(案)の検討・作
	11	(月)	
	18	(月)	
	25	(月)	
8月	1	(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレター及びホームページへの掲載等による候補者の会員への周知
	8	(月)	
	15	(月)	
	22	(月)	
9月	5	(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期役員募集・推薦委員会は、総会において、候補者募集・推薦等の経過の報告を行う。
	12	(月)	
	17	(土)	
	19	(月)	
	26	(月)	

● 新任のご挨拶

事務局長 ^{たかはし}高橋 ^{まさひこ}真彦

前号のニュースレター（No.51号）でもご紹介頂きましたが、4月1日より事務局長に就任いたしました高橋です。

就任時期と前後して、東北地方は未曾有の災害に襲われていますが、私は青森で生まれ、岩手で育ちました。また、これまで主に河川環境に関わる業務に携わって来ましたが、宮城、岩手の河川のほとんどは私がかつて調査に訪れた場所です。定宿にしていた旅館や、調査にご協力頂いた地元の方々、県や市の担当の方々など、今どうされているのかと思うとなかなか穏やかな気持ちでいることはできません。

さて、事務局では現在、これまで理事会・幹事会で審議された内容を元に、事務局作業の適正化に向けた試みを行っています。会員の皆様や役員・委員の皆様にもご協力頂き、改善できるところから始めていきたいと考えています。

事務局運営は初めての経験で、皆様にご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

.....

[平成23年5月31日現在会員数]

名誉会員：	4名	
正会員	： 1, 147名	
学生会員：	94名	合計 1, 241名
賛助会員：	28法人 (42口)	

(第15回総会・研究発表会・公開シンポジウム・分科会・自由集会・エクスカーション)

応用生態工学会

2011年(平成23年)9月14日(水)～9月17日(土)に石川県金沢市にて、第15回大会(総会・研究発表会・分科会(特定テーマ・セッション)・公開シンポジウム・エクスカーション)を開催します。

本大会実施に向け、研究発表の募集と受付を開始しました。口頭発表では、英語での発表・討論を経験する機会を提供し、多くの参加者と国際交流を図るために、英語によるセッションを設けました。また、今大会ではテーマを絞って議論したい会員のために、従来の口頭発表に加えテーマを特定した分科会や自由集会を準備したいと考えています。多くの会員の皆様の発表参加をお待ちしております。

9月17日(土)には、『エコリージョンを考える～生物多様性と地域の歴史と伝統に基づく流域管理～』と題した公開シンポジウムを開催します。特別講演として、エコリージョンの研究に関して世界的な権威である Robert Bailey 博士(アメリカ森林局, アメリカ)に講演頂き、国内の研究者・技術者との活発な意見交換を行えるシンポジウムとしたいと考えています。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会初日の9月14日(水)には、加賀の名峰白山(2,702m)を水源とする手取川の水源から河口までを巡るコースと、城下町金沢を潤す用水を散策するコースに別れ、流れの連鎖や水辺生物について考えるエクスカーションを行います。

(1) 大会概要

【日 程】

9/14(水) : 第1日目 エクスカーション

9/15(木) : 第2日目 研究発表(ポスター), 自由集会

9/16(金) : 第3日目 研究発表(口頭), 分科会, 自由集会, 懇親会

9/17(土) : 第4日目 午前: 役員会・総会等, 午後: 公開シンポジウム

—スケジュールは、変更することがあります。詳細なスケジュールは、ホームページ(7月29日予定)、ニュースレター(No.53発行)でご案内します。—

【会 場】

研究発表: 金沢学院大学

住所: 石川県金沢市末町10

電話: 076-229-1181

URL: <http://www.kanazawa-gu.ac.jp/>

交通: 自家用車利用の場合、金沢西インターから約40分、金沢森本インターから約20分。金沢駅より北陸鉄道バスを利用の場合、東口(10番)18系統(香林坊・本多町経由)で乗車し、「金沢学院大学・金沢学院東高校・東部車」バス停にて下車。

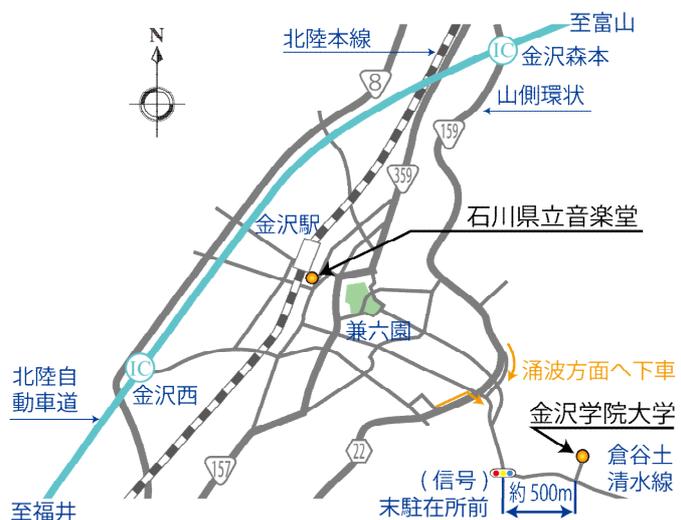
総会・公開シンポジウム: 石川県立音楽堂

住所: 石川県金沢市昭和町20-1

電話: 076-232-8111

URL: <http://www.ongakudo.jp/>

交通: 金沢駅東口から徒歩1分。



(2) 公開シンポジウム概要

エコリージョンを考える ～生物多様性と地域の歴史と伝統に基づく流域管理～

コーディネーター 金沢学院大学大学院教授 玉井信行

【企画のねらい】

河川流域においては過去から様々な要因、例えば気候、地史あるいは人間活動の影響を受け、独特の生物相が形づくられてきた。地形・気候・植生等が類似し、人為的な影響が同じ程度の地理的領域を区分する概念としてエコリージョンがある。

一つのエコリージョンは自然特性と人間の営為の双方が、他のエコリージョンとは異なることを意味している。これを言い換えれば、エコリージョンの中で生態系は独自の多様性を保持して来たとし、人間社会は独自の文化を育んできたことを意味する。エコリージョンは生物多様性と地域の歴史と伝統を育んできたのであり、これを流域管理の基本に据えることは、生態学の成果を国土計画に活用出来ることになる。

本シンポジウムでは、エコリージョンの世界的第一人者であるアメリカのロバート・ベイリー博士からエコリージョンの基本的な考え方と、この概念がアメリカでどのように適用されているかについて、基調講演を予定している。国内からの講演者には、エコリージョン概念を生態的な指標と物理的な指標から考察する二つの潮流について、その現状や特徴などに関する講演、および、こうした考えによって川の分析を行った具体的な事例紹介などをお願いしている。このような先進的な成果に基づいて、エコリージョンを我が国の河川にどのように当てはめ区分を行っていくか、そしてそれに基づく生物多様性の保全を考慮した持続的な流域管理の在り方とは何かを議論する。それらを通して、本シンポジウムが地域の歴史と伝統に基づいた特色ある健全な川づくりの考え方を、広く市民の方々と共有する場となることを期待している。

【プログラム(案)】

- | | | |
|-------------|-------------|--|
| 13:00～13:05 | あいさつ | 玉井実行委員長 |
| 13:05～14:05 | 基調講演 1 | Robert Bailey 博士 (アメリカ森林局, アメリカ) (予定) |
| 14:05～14:35 | 基調講演 2 | 島谷幸宏 (九州大学大学院 工学研究院教授) |
| 14:35～15:35 | (15分×4名) | 事例報告 |
| | | 中村太士 (北海道大学大学院 農学研究院 教授) |
| | | Chen Siew Fong (チェンシュフォン) (京都大学大学院地球環境学舎博士課程) |
| | | 渡辺勝敏 (京都大学大学院理学研究科准教授) |
| | | 天野邦彦 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川環境研究室長) |
| 15:35～15:45 | 準備休憩 | |
| 15:45～17:00 | パネルディスカッション | |
| | | コーディネーター: 玉井信行 |
| | | パネリスト: Robert Bailey, 島谷幸宏, 中村太士, Chen Siew Fong |
| | | コメンテーター: 渡辺勝敏, 天野邦彦 |

(3) 研究発表募集

応用生態工学に関わる研究報告などの研究発表の受付を開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。口頭発表では、英語での発表・討論を経験する機会を提供し、多くの参加者と国際交流を図るために、英語によるセッションを設ける予定です。多くの方々の英語セッションへの

参加とご理解をお願いいたします。下記要領に基づき応募して下さい。

〔1〕 研究発表内容

研究発表に応募できる講演内容は、応用生態工学に関する研究報告、事例報告およびその他です。当該発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究報告が基礎的内容であってもかまいません。

〔2〕 発表方法

応募に当たっては、「ポスター発表」か「口頭発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会の変更をお願いする場合があります。

〔3〕 発表時間

口頭発表の発表時間は、1 課題当たり 15 分(発表 12 分, 討論 3 分) 程度で、申込数により決定します。

〔4〕 研究発表申込 6 月 28 日 (火) 17:00 までを厳守して下さい。

研究発表を申し込まれる方は、申込記入事項を記載した E-mail を、下記メールアドレス宛にお送り下さい。

研究発表申込先： kanazawa-15th-meeting@ecesj.com

——申込記入事項——

1. 発表者名および連名者名と各々の所属 (会員番号)
(会員番号：連名者が非会員である場合、番号は不要)
2. 研究発表題目
3. 連絡先 (〒, 住所, 氏名, TEL, FAX, E-mail)
4. 研究発表概要 (和文 200 字程度)
5. 「ポスター発表」「口頭発表」の希望
6. 研究報告, 事例報告, その他 の別
7. キーワード (対象地域・対象生物を含め 5 つ程度)

[対象地域の例]

河川, 汽水域, 湖沼, 海域, 森林, 水田, 畑地, 道路, 都市, 農村等

[対象生物の例]

生態系, 陸上植物, 陸上動物, 水生植物, 底生動物, 鳥類, 魚類等

提出いただいた概要をもとに発表の振り分けを開始いたしますので、簡潔かつ研究内容を可能な限り明示した内容を記載して下さい。

後日事務局より受付および「ポスター発表」か「口頭発表」の確認連絡をいたします。

〔5〕 研究発表要旨 原稿の提出は 7 月 19 日 (火) 17:00 までを厳守して下さい。

研究発表者 (口頭発表およびポスター発表いずれも同じ) は、研究発表要旨原稿 (A4 版 2 枚 or 4 枚) を期日までに事務局へ提出して下さい。原稿は下記の要領に従って作成して下さい。

なお、ポスター作成要領、口頭発表要領および関連スケジュールを 7 月 29 日 (金) に応用生態工学会ホームページにアップロードする予定です。

—研究発表要旨原稿作成要領—

研究発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載いたします。

- ・A4 版縦, 2 枚または 4 枚
- ・左右 15mm以上, 上下 18mm以上余白
- ・横一段組み, 中央に「講演題目」を和文にて, 14 ポイント程度の文字, 2 行以内で記入
- ・題目の下 1 行空け右寄せで「講演者名, 連名者名, 各々の所属」を, 12 ポイント程度の文字で記入
- ・本文は, 10.5 ポイント・明朝
- ・原稿はそのまま印刷できるイメージの PDF ファイルとして作成し, E-mail に添付して kanazawa-15th-meeting@ecesj.com 宛にお送り下さい。なお, 印刷はモノクロです。

〔6〕研究発表者資格

研究発表者は, 応用生態工学会の正会員, 学生会員および賛助会員法人に所属する個人とします。なお, 連名者については会員・非会員を問いません。但し, 研究発表者が学生の場合, 連名者に会員がいれば可とします。

〔7〕発表賞

ポスター発表, 口頭発表のそれぞれを対象とします。

● Call for Communications

Submission of communications is now open for the 15th Annual Meeting. Communications are either research reports, case studies, or other topics in the field of ecology and civil engineering. There are two presentation types (poster or oral). English sessions will be held in the oral presentation, and provide members of the Ecology and Civil Engineering Society, Japan (ECESJ) with valuable opportunities to discuss several issues in English. Moreover, the English sessions can also give chance to communicate with who do not understand Japanese. Therefore, your kind attention to the English sessions would be highly appreciated. Please submit your proposals in line with the following guidelines.

[1] English topics

Acceptable communications should be research reports, case studies or other topics on ecology and civil engineering. Preliminary research reports will be also acceptable if they are applicable to various field developments and activities.

[2] Presentation types

Please choose the presentation types (poster or oral), and stipulate your preferred type in your submission. However, for the reasonable use of limited space and time, we may ask you to change your presentation type (poster or oral).

[3] Duration of your presentation

Each oral session will be 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3-minute discussion period).

[4] Deadline : 17:00, June 28 (Tue.), 2011

If you wish to give a poster or oral presentation, please send your application form to Ecology and Civil Engineering Society (kanazawa-15th-meeting@ecesj.com) by e-mail with the following items.

—Required items on the application form—

1. Full name of presenter, his or her professional affiliation and membership number (if he or she has). If the presenter has co-authors, all full names of co-authors, their professional affiliations and membership numbers (if they have) should also be stipulated.
2. Presentation title
3. Mailing address, full name of presenter, tel., fax., e-mail
4. Summary of presentation (The length should be around 7 lines)
5. Preferred type of presentation (poster or oral)
6. Topic of presentation (research report or case study or other topics)
7. Keywords (about 5 words including the land and organism classification as listed below)

[Example of land classification]

Rivers, brackish waters, lakes, seas, forests, paddy fields, dry fields, roads, urban areas, rural areas, etc.

[Example of organism classification]

Ecosystem, terrestrial plants, terrestrial animals, aquatic plants, benthic animals, birds, fishes, etc.

Presenters will be sorted into their designated sessions based on the summary of presentation submitted. The summary should be made brief and specific for the purpose. The notification of acceptance and the designated presentation type (poster or oral) will be informed by the secretariat of ECESJ later.

[5] Deadline for abstract submission : 17:00, July 19 (Mon.), 2011

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should submit a manuscript (two or four sheets of A4 paper) for an abstract of your presentation to the secretariat of ECESJ by the deadline. The manuscript should be prepared in line with the following instructions.

Instructions for the poster and oral presenters, instruction for preparing poster and the presentation schedule will be uploaded to the web site of ECESJ on July 29 (Fri.), 2011

—Instructions for presentation abstracts—

Abstracts will not be peer-reviewed.

- Please use 2 or 4 sheets of A4 paper
- Right and left margins should be more than 15 mm, and top and bottom margins should be more than 18 mm
- The title of your presentation should be one column and centered. The length of the title should be within 2 lines and the font size should be in 14 points
- Full names of the presenter and co-authors with their affiliations should be inserted right-aligned after inserting one blank column below the presentation title. The font size should be in 12 points
- The main text should be in 10.5 points. The font should be representative Roman such as Times
- Please submit a camera-ready manuscript which includes figures and tables. Please send a PDF of the manuscript as an e-mail attachment to kanazawa-15th-meeting@ecesj.com. The Printing of manuscript letters should be in black.

[6] Qualification of presenters

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should be the ordinary member, student member or any people belonging to the supporting member company of the ECESJ (co-authors need not be ECESJ members). However, presentations by students who are not ECESJ members are also acceptable if one of their co-authors is an ECESJ member.

[7] Presentation awards

The Ecology and Civil Engineering Society of Japan (ECESJ) presents “Presentation Awards” at the Annual Meeting to excellent posters and oral presentations.

(4) 分科会・自由集会企画募集！

今大会ではテーマを絞って議論したい会員のために、分科会や自由集会を開催できる小会場をいくつか確保しています。議論したいテーマをお持ちの方は、積極的に申し出ください。なお会場数及び開催時間帯は限られていますので、どうかお早くご連絡いただき（6月28日（木）まで）、ご相談ください。

(連絡先) E-mail: kanazawa-15th-meeting@ecesj.com

(5) エクスカーション

1) 日 時

9月14日（水） Aコース【手取川（水源の森から河口まで）コース】
金沢駅発 9:00 → 金沢駅着 17:30
Bコース【金沢の里山と、まちなか用水コース】
金沢駅発 13:00 → 金沢駅着 17:00

2) 行 先

Aコース：手取川の上・中・下流域 Bコース：金沢市郊外と旧市街地

3) 参加費等（予定）

Aコース 一般：3,000円 学生：1,500円（バス代、昼食代）
Bコース 一般：1,000円 学生：500円（バス代）
※ A・Bコースとも、定員は45名で先着順とします。

(6) 懇親会

懇親会は金沢城・五十間長屋です。

五十間長屋（本来は武器・甲冑などの倉庫）は兼六園のお隣、金沢城公園に在り、史実を尊重して日本古来の伝統工法によって平成13年に復元されました。

懇親会で往時を体感されてみませんか？



(7) 参加申込み方法

詳細なスケジュールや申し込み等は、次号（No. 53 7月29日予定）ニュースレターやホームページでご案内いたします。

(8) お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：kanazawa-15th-meeting@ecesj.com